

**一般社団法人 日本臨床栄養代謝学会**  
**第7回定時社員総会議事録要旨**

日 時：2020年2月26日（水）16：00～18：30

場 所：国立京都国際会館 Room A

議決権のある社員総数	232名
総社員の議決権の数	232個
出席社員数	228名（委任状による出席140名を含む）
この議決権の総数	228個

議 題：

**I. 理事長挨拶**

定款第5章第21条に則り、第7回定時社員総会を開催することが宣言され、定款第5章第23条に則り、議長は理事長が務め、議事録署名は定款第26条に則り、大石英人代議員および志賀英敏代議員にお願いすることになった。続けて、今回の第35回学術集会における集合型開催中止の決断に関して、本会としては、危機的な社会状況を踏まえた苦渋の判断であったこと、感染拡大防止に向けた政府の方針に沿ってぎりぎりの判断を行ったことが説明された。さらに、第7回定時社員総会の開催については、学会名称変更後の初めての定時社員総会となり、法人の運営上、必要な審議事項を本会議で提出する必要があるため、今回の召集に至ったこと、また、既に事前に通達しているが、代議員の資格継続要件における連続3回欠席（委任状提出も不可）要件については、今回に限り委任状の提出をもって、会場への出席と同等扱いとしてカウントするとの補足説明がされた。

**II. 第35回学術集会会長挨拶**

佐々木会長から第35回学術集会の開催にあたりご協力をいただいた関係各位に謝辞が述べられた。続けて、今回のCOVID-19感染拡大防止のため、明日からの集合型形式での学術集会開催の中止に伴う、現時点で決定している方針、今後のいくつかの対応について以下の報告と説明がされた。

1. 発表形式について

第35回学術集会は誌面開催とする。プログラム集に掲載されているプログラムはすべて発表履歴として有効とする。同内容での演題発表を次期以降の本学会や他学会で行うことは、二重発表となるので注意する。

2. 公開予定のプログラム

一部の講演プログラムは、収録し参加登録者にウェブサイト上でお届けできるように準備する。

3. 第35回学術集会での業績の扱いについて

各種発表・司会・座長などの履歴をJSPENの業績として認める。本会の学術評議員・代議員・認定医・指導医・臨床栄養代謝専門療法士などの各制度において申請利用する場合には、第35回学術集会での参加履歴が必要。事前もしくは事後での参加登録を必須とする。今後、第35回学術集会での履歴をJSPENの各申請において業績として申請される場合には、参加証の提出を求められる。

4. 事前参加登録された方への対応について

事前参加登録された費用は、返金しない。事前に発送された第35回学術集会参加証と領収証は、学会参加したことの証明として大切に原本を保管いただく。

### 5. 当日参加登録を予定されていた方の対応について

当日参加登録を予定されていた方は、事前参加登録された方と同じ情報の提供と資格申請等の参加履歴提供のために、希望者を対象とした事後参加登録を行う。

継続検討事項として、本学術集会の会場である国立京都国際会館より日程を改めた代替での関連事業開催案についての提案もあり、今後、理事会で継続協議していく予定であることが報告された。

東口理事長より、今回の集合型開催の中止に伴い、例年会期中に開催している総会・学術評議員会は、2020年度分はカウントしない（実施しない）扱いとすることを先ほど開催された第1回定例理事会で決定したことが報告され、本社員総会でもその方針・運用について承認がされた。

## Ⅲ. 庶務報告

### 1. 会員動向と年会費納入状況について

伊藤事務局幹事より、2020年12月31日時点の会員動向および年会費納入状況について、報告された。

■2019年12月31日現在 ※宛先不明70名含む、退会・休会除く

会員種別	2018年12月31日	2019年12月31日	増減
名誉会長	2名	2名	±0名
名誉会員	43名	43名	±0名
特別会員	48名	50名	+2名
代議員	237名	232名	-5名
学術評議員(代議員は除く)	395名	413名	+18名
正会員	20,401名	21,216名	+815名
寄贈会員	7名	8名	+1名
総数	21,133名	21,964名	+831名

■職種別

\*ログインシステム未入力会員

医師	4,682名	管理栄養士	6,084名	言語聴覚士	592名
歯科医師	405名	栄養士	74名	歯科衛生士	122名
看護師	4,036名	臨床検査技師	686名	診療放射線技	3名
准看護師	3名	理学療法士	433名	その他*	732名
薬剤師	3,992名	作業療法士	120名	合計	21,964名

■2019年分会費納入率 ※宛先不明・退会・自動退会含む

会員種別	納入者数	未納者数	納入率(2018年)	
代議員	230名	2名	99.1%	(97.8%)
学術評議員	406名	7名	98.3%	(93.6%)
正会員	20,187名	1,029名	95.0%	(87.2%)
総数	20,823名	1,038名	21,861名	

### 2. 2019年度事業報告および2020年度事業計画について(別添資料 参照)

2019年度事業報告および2020年度事業計画が提出され、異議なく承認された。

#### IV. 会計関連事項（会計関連資料 参照）

福島前会長より、第34回学術集会の収支報告がされた。伊藤事務局幹事より、2019年度貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表について説明され承認された。大野伸幸公認会計士より、独立監査人としての監査報告がされた。土岐監事より、理事会審議に先立って4名の監事で貸借対照表、正味財産増減計算書、その他の財務諸表と関係帳簿を照合し、会計帳簿書類及び財政状態について、いずれも適法かつ正確であることを確認し、理事会でも承認されたことが報告された。続けて、福島財務委員長より、2020年度会計・各委員会の予算書（案）が提出された。なお、COVID-19の感染拡大防止の対応により、今回の学術集会収支予算や関連の事業については、当初の予算計画と差異が生じることが想定される。今後の見通しも立たない状況であり、予算については、今回提出させていただくものとし、必要な対応・執行については拡大総務委員会・理事会に一任する方針も含めた一連の予算案の承認がされた。

#### V. 各種委員会・部会 審議事項

##### 総務委員会 代議員・学術評議員選考WG（野上理事）

2020年1月6日に代議員・学術評議員選考WGを開催した。今回は代議員の改選年であり、新規・再任候補者および学術評議員の審査を行った。新規代議員候補者として30名、再任代議員候補者として36名、新規学術評議員候補者として94名を選考した。また、理事会推薦による代議員審査申請制度が発足し、理事会より6名の推薦があり、本WGでも確認し、理事会推薦による代議員として本社員総会へ提出したことが報告され、全提出候補者が承認された。

##### 将来構想委員会（鍋谷理事）

認定医・指導医・認定歯科医更新資格の変更について

将来構想委員会、認定・資格制度委員会、NST委員会、教育委員会、倫理・利益相反委員会の合同にて、認定医・指導医・認定歯科医更新資格の変更案が提出され承認された。

最近の認定教育施設数の減少は、今後のNST専門療法士の新規受験に支障をきたすだけでなく、わが国のNST活動の進歩を妨げる可能性がある。原因の一つとして、認定医が資格更新できずに認定教育施設を維持出来ないケースがある。更新の質を担保しつつ、更新条件の変更を上記合同委員会で協議し、理事会審議を経た以下の概要での規約変更案が提出され、承認された。

##### 指導医・認定医・認定歯科医更新条件の変更の概要

- 1) JSPEN 栄養マスターコース、NST ベーシックコースの講師経験は、規約に定めた他のセミナー講師同様に、指導医・認定医・認定歯科医の更新条件として追加する。
- 2) JSPEN 栄養マスターコースは、当会の医師・歯科医師教育制度におけるアドバンスコースに位置するため、この参加は学術集会参加要件の代替の位置付けとする。
- 3) 以上の項目を加え、現行の学術集会 3 回以上の参加を定めた項目については、「4. 本学会学術集会に 3 回以上参加していること。うち 1 回は、本会学術集会時の指定研修プログラム<sup>\*1</sup>か NST フォーラムへの参加または、JSPEN 栄養マスターコース受講を充てることができる。」

**認定・資格制度委員会（福島理事・三原理事）**

認定医・指導医制度終身認定年齢上限の変更に伴う諸規約・規程の変更について

認定医・指導医制度規約第 21 条には、終身認定への移行（指導責任者資格は喪失）について定めている。認定教育施設は減少傾向にあり、かつ当該規約に基づく終身認定の移行は、後任者が不在の場合、近隣に認定教育施設がなく所属地域で実施修練を行うことが困難な状況に陥ることになるため、条件の見直しについての要望が寄せられていた。実際に満 65 歳以上となっても認定医・指導医として所属施設で現職であり、NST 活動を継続されておられる先生方も多数おられるため、2017 年の移行措置との整合性も考慮し、終身認定の年齢上限を満 65 歳から満 70 歳へ変更する案が提出され、承認された。また、本変更を伴うことにより、認定医・指導医の勤務形態が多少流動的になる可能性があるため、栄養サポートチーム専門療法士認定規程における認定教育施設条件についても一部変更し、教育施設の維持を図るとともに実績のある指導責任者資格の継続と後進の育成に努めていただきたいとの協力依頼がなされた。

変更前	変更後
<p align="center"><u>認定医・指導医制度規約</u></p> <p>第 9 章 認定医・指導医の認定証(更新)            第 21 条 認定医・指導医の更新を希望するものにあつては、本人から送付された更新に必要な所定の申請書類によって審査した後、認定更新料の納入を確認し認定証を交付する。            . . . .            尚、認定期間中に<u>満 65 歳</u>に達した場合は終身認定とする。</p>	<p align="center"><u>認定医・指導医制度規約</u></p> <p>第 9 章 認定医・指導医の認定証(更新)            第 21 条 認定医・指導医の更新を希望するものにあつては、本人から送付された更新に必要な所定の申請書類によって審査した後、認定更新料の納入を確認し認定証を交付する。            . . . .            尚、認定期間中に<u>満 70 歳</u>に達した場合は終身認定とする。</p>
<p align="center"><u>栄養サポートチーム専門療法士認定規程</u></p> <p>第 4 章 認定教育施設の認定            第 16 条 認定教育施設の認定は以下の(1)、(2)、(3)、(4)の各号総てを満たすことを要す。            . . . .  <u>(3) 認定医が常勤で在籍すること。</u></p>	<p align="center"><u>栄養サポートチーム専門療法士認定規程</u></p> <p>第 4 章 認定教育施設の認定            第 16 条 認定教育施設の認定は以下の(1)、(2)、(3)、(4)の各号総てを満たすことを要す。            . . . .  <u>(3) 本学会「認定医」が当該施設で NST スタッフとして勤務していること(回診等のチーム活動に参加していない場合も認める)。</u></p>

**NST 委員会（中瀬理事）**

NST 稼働認定施設要件の変更と規程への追加について

NST 委員会内規および NST 稼働施設認定規程における学会名称部分の変更と NST 稼働施設認定要件の変更に伴う一連の規程改訂案が提出され、承認された。

- ・ NST フォーラムの参加クレジットに関する条文の追加について

NST 稼働認定施設の質の担保を目的として更新申請時の必要要件に学術集会における NST フォーラム参加を更新条件クレジットに加える。認定(更新認定)年から更新申請年までの約 4 年間の間に異なる年度の学術集会の NST フォーラムに NST 稼働認定施設の NST 委員会メンバーが 2 回以上出席を

条件とする。NST フォーラム時に参加証明書を発行し、更新時には参加証明書を提出し確認を行う。  
なお、本クレジットは、施設に対するクレジットのため、NST メンバーの誰が参加してもよい。

#### NST 稼働施設認定規程

##### 第 7 条 NST 稼働認定を受けるための資格

NST 稼働施設認定の申請資格（新規、更新）は、次の各号の資格を全て満足する施設であることを要す。

##### 2. 更新施設認定基準と更新の保留

・・・

12) NST フォーラムへの参加履歴。（4 年間で年度の異なる 3 回の参加証の提出。名簿に記載されている NST メンバーのいずれの参加でも構わない。5 年間で異動があった場合は別途その旨の施設長の証明書を添付する。参加証の配布方法は学術集会ごとにアナウンスされる。）

#### 学術集会実践支援委員会（犬飼理事）

2024 年 第 39 回学術集会開催地について

2024 年は関東地域での開催を優先し、会場調査を進めた。今回、横浜（パシフィコ横浜）にて、以下の開催期間での会場が確保できたため、2024 年の開催地として提案がされ、承認された。

会 期：2024 年 2 月 29 日（木）～3 月 1 日（金）

開催地：横浜（パシフィコ横浜：国立大ホール、会議センター全館、展示ホール AB、アネックスホール）

#### その他（佐々木副理事長・編集委員長）

「日本静脈経腸栄養学会雑誌」最終号に掲載された掲載広告内容に対する対応について

「日本静脈経腸栄養学会雑誌」は 2019 年 12 月 25 日発行の第 34 巻 5 号をもって最終号となったが、同号において表紙のデザインはそのままに巻号は継続し、別に発行されている雑誌名を移行して発行するという広告が、本会に無断で掲載されていた。会員より「購読必須であるのか」「会費とは別に購読料を徴収するのか」など多くの問い合わせがあり、混乱する事態となったため、事実確認と緊急の周知対応を行ったことが報告され、適正な対応・対処を進めているとの報告がされた。

## VI. 各種委員会・部会 報告事項

### 【総務統括部門】

#### 総務委員会 広報 WG（吉田理事）

##### 1. JSPEN メールニュースの配信について

2019 年 4 月より広報活動として、メールアドレス登録のある会員に対し、月 2 回の配信を目標にメールニュースの一斉配信事業を行った。各認定関係を含む申請案内やセミナー公示・募集など会員が必要とする情報を Vol. 2019-1～22 として計 22 回配信した。

##### 2. 日本医学会総会 2019 中部分科会展示発表について

2019 年 4 月 27 日～29 日に名古屋国際会議場で開催された日本医学会総会において、最大の会員数をもつ栄養の学会としての社会への貢献、NST 活動の普及、各職種への教育活動、学術雑誌の刊行

などにつき、ポスター展示を通して学会名称変更も含めた本会の広報活動を行った。

### 3. JSPEN「Newsletter」発行について

機関誌「日本静脈経腸栄養学会雑誌」の発行終了により、機関誌に掲載してきた学会会告など会員への連絡がウェブサイト、メールニュースのみとなるため、新規の連絡手段として JSPEN「ニューズレター」を創刊した。

### 規約委員会（石井理事）

以下の諸規約について本委員会に確認依頼があり、規約策定のための確認を行った。

1)NST 稼働施設認定における新規クレジット付与に関する件、2)認定医の資格更新変更に関する件、3)職能三部会(栄養士・管理栄養士部会、薬剤師部会、看護師部会)の規程の件、4)支部統括委員会の規約策定の件、5)NST 委員会からの審議事項に関する規程の件、6)将来構想委員会からの提出議案に関する諸規程の改訂の件

### 倫理・利益相反委員会（鷺澤理事）

2019 年度は第 1 回～第 10 回の持ち回り委員会形式での倫理審査・協議した。2020 年度は、学会発表演題の倫理審査の課題があり、倫理・利益相反委員会の要望がさらに高くなることから、現在の倫理・利益相反委員会の増員について協議を行った。また、専門的・高度な倫理案件においては、外部委員を含めた審議が必要となるため、理事会審議を経て、2 名の外部委員の就任について承認がされた。

### 支部統括委員会（犬飼理事）（別添資料 参照）

- 2019 年は支部会の再構成について支部長および支部統括委員会にて協議を行った。各支部の会員構成（地域性）や世話人会の体制など支部毎の整合性を図ることも目的とし、2020 年度より新支部体制に移行のため、準備・調整を行った。
- 2020 年 1 月より、支部会は 8 支部体制とし、旧世話人と学術評議員・代議員（2020 年 2 月理事会承認者を含む）が各支部の世話人に就任する。支部長および世話人に委嘱状を学会より郵送する。
  - 北海道支部：支部長 巽 博臣（札幌医科大学附属病院）（北海道）
  - 東北支部：支部長 宮田 剛（岩手県立中央病院）（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）
  - 関東甲信越支部：支部長 鈴木 裕（国際医療福祉大学）（栃木、群馬、埼玉、茨城、千葉、新潟、長野、山梨）
  - 首都圏支部：支部長 鷺澤尚宏（東邦大学医療センター大森病院）（東京、神奈川）
  - 中部支部：支部長 清水敦哉（済生会松阪総合病院）（静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井）
  - 近畿支部：支部長 飯島正平（大阪国際がんセンター）（京都、奈良、大阪、和歌山、滋賀、兵庫）
  - 中国四国支部：支部長 三原千恵（日比野病院）（鳥取、島根、山口、広島、岡山、香川、愛媛、徳島、高知）
  - 九州支部：野上哲史（熊本第一病院）（福岡、熊本、長崎、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄）
- 2020 年 12 月からは、山梨県と長野県の所属支部を変更し、新 8 支部体制の編成を行う。
  - 北海道支部：支部長 巽 博臣（札幌医科大学附属病院）（北海道）
  - 東北支部：支部長 宮田 剛（岩手県立中央病院）（青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島）
  - 関東甲信越支部（仮称）：支部長 未定（栃木、群馬、埼玉、茨城、千葉、新潟）
  - 首都圏支部（仮称）：支部長 鷺澤尚宏（東邦大学医療センター大森病院）（東京、神奈川、山梨）
  - 中部支部：支部長 清水敦哉（済生会松阪総合病院）（静岡、愛知、三重、岐阜、富山、石川、福井、長野）

- (6) 近畿支部：支部長 飯島正平（大阪国際がんセンター）（京都、奈良、大阪、和歌山、滋賀、兵庫）
- (7) 中国四国支部：支部長 三原千恵（日比野病院）（鳥取、島根、山口、広島、岡山、香川、愛媛、徳島、高知）
- (8) 九州支部：野上哲史（熊本第一病院）（福岡、熊本、長崎、大分、佐賀、宮崎、鹿児島、沖縄）

#### 4. 各支部の事業支援体制について

各支部は事業責任者を支部長とし、事業計画書および予算案を理事会に提出・承認を得た上で、事業を企画・運営することを前提とする。本部は、各支部 HP・News letter に掲載し、サポートを行う。事業参加者管理など部分的・段階的に継続検討しながらコンベンション委託についても進める。

#### 5. 謝金・旅費規定

支部会での事業拡大をにらみ、本部と支部会での謝金規定の統一を行うまた同時に旅費規程の変更も行う。

#### 6. 支部学術集会について

2020 年度の支部会は従来通りの方法で行う。ただし支払い規定は順守する。2020 年度より支部会学術集会は、収支予算書と収支決算書を提出する。

#### 7. 支部学術集会の参加費について

支部学術集会参加費（事前登録）は、会員 4,000 円（3,000 円）・非会員 5,000 円（4,000 円）とする。（会員と非会員は、消費税等の納付のため必ず分ける）

#### 8. 懇親会：会議室以外で飲食を伴う会

- ・年次学術集会は、拡大プログラム委員会（会長招宴）・全員懇親会とする。参加者対象は、会員・非会員を問わない、名誉会長・名誉会員・特別会員・役付きの非会員は招待とする。
- ・支部学術集会は、世話人会懇親会・全員懇親会の開催は行わない。

#### 9. 協力者に対する懇親会：支部学術集会関連収入に伴う反省会・打ち上げは行わない。

### 【渉外部門】

#### 国際委員会（小谷理事）

##### 1. JSPEN 関連国際学会の報告

JSPEN 関連の以下の国際学会が開催された。

- ASPEN 2019 : Nutrition Science & Practice Conference March 23-29, 2019 ・ Phoenix, AZ
- KSPEN 2019 : The 18th Annual Congress of KSPEN & 2019 International Symposium(KSPEN 2019)  
June 21-22, 2019 / SNUBH Healthcare Innovation Park, Seoul, Korea
- 第 48 回世界外科学会議(WCS2019)・国際外科代謝栄養学会(IASMEN)  
2019 年 8 月 11 日～15 日：クラクフ、ポーランド(東口理事長が IASMEN 理事長)
- ESPEN 2019 : 41st ESPEN Congress on Clinical Nutrition & Metabolism Krakow, Poland | 31 August - 3 September, 2019 Nutrition - A Highway to Health
- PENSA Congress 2019 : October 8-10, 2019, Hong Kong.

##### 2. ESPEN-JSPEN meeting 2019 について

ESPEN2019 に際して 2019 年 9 月 1 日に ESPEN-JSPEN meeting 2019 が開催された。ESPEN 理事長の Rocco Barazzoni 先生から日本の活動に対して感謝が述べられ、活動報告と意見交換を行った。

##### 3. ESPEN Winter Meeting 2020 について

ESPEN Winter Meeting 2020 が 2020 年 1 月 17 日～19 日の間、ニース(フランス)the Westminster Hotel にて開催された。JSPEN からは国際委員の福島理事が理事長・国際委員長代理で出席した。また、今回「ESPEN NEMS Meeting」が 2020 年 1 月 19 日に並列で開催された。

#### 4. NEMS (Nutrition Education in Medical Schools) Meeting について

NEMS は、各国の医科大学、医学部の栄養療法に関する教育を広めることを目的に ESPEN が実施している事業であり、今回はこの事業に関し、ヨーロッパでの教育における規則および規定を共有するための試験的なプロジェクトの開発を目的に「学部学生に栄養教育をするべきだが、どのようにしたら良いか」についてディスカッションされ、福島理事が日本の現状について発表を行った。

### 国際委員会 nutritionDay WG (小山理事欠席のため小谷理事)

nutritionDay の研究計画書や説明同意文書の改訂を行い、倫理・利益相反委員会に変更を申請し承認を得た。ウェブサイト上でも nutritionDay の WEB を更新し、会員へ情報発信を行った。

2019 年は 11 月 7 日を nutritionDay とし登録及び調査が行われた。また、ESPEN 2019 (クラクフ (ポーランド)) の際に開催された nutritionDay National coordinators meeting に出席し、参加各国との交流及び情報交換を行った。

### 保険委員会 (飯島理事)

#### 1. 2020 年度診療報酬改定に関する申請について

2020 年度診療報酬改定に関して、外保連を通じて学会新規・改正要望を下記の通り提出し、厚生労働省よりヒアリングを受けた。中医協医療技術評価結果は今回見送られることになったが、今回の改定に関しては、パブリックコメントが求められており、厚生労働省へ提出した。

【新規】栄養管理連携加算 1・栄養管理連携加算 2

【改正】C105-3 在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の改正 (適応拡大)

#### 2. アミノ酸を含む輸液製剤の禁忌変更に関する要望について

厚生労働省から本件について「透析等の除外」に向けた審議を行う調査会開催に入るとの連絡があった。さらに改訂後の安全確保のため調査会の資料として、当会で「適正使用に関する注意事項」を作成依頼があった。理事会審議を経て、対応することになった。

#### 3. 要望書の提出について

以下の要望書を提出した。

1) 不採算品再算定(輸液製剤協議会)、2) アナモレリンの早期適応所得に関する要望書(小野薬品工業)。

#### 4. 「ホームヘルパー等の介護職や介護福祉士等の認定特定行為業務従事者による経管経腸栄養法の接続などの実施における対象となる手技の表現を現在の限定的な表現から食道ろうなどを含めた表現に緩和する嘆願書の提出」について

標記の件について、関係学会にて厚生労働省への共同要望書の提出が検討されている。当会が中心となり要望書を提出することが関係団体からも望まれており、まずは保険委員会事案として委員会内で検討し、理事会の議も経て対応を進めることになった。

< 要望書提出団体 >

一般社団法人日本臨床栄養代謝学会、日本外科代謝栄養学会、PEG・在宅医療学会

一般社団法人日本在宅医療連合学会、日本 PTEG 研究会

## 【教育・奨励部門】

### 教育委員会（鍋谷理事）

#### 1. 2020年NST専門療法士受験必須セミナーについて

COVID-19感染拡大防止のため、第1回NST専門療法士受験必須セミナーの座学開催は中止し、e-learning形式での実施に変更した。第1回講師陣には本会期中に講義収録をお願いしている。第2回以降は、状況を鑑みながら実施形式について検討し、随時ウェブサイトにて案内する。

#### 2. 第7回JSPEN栄養マスターコースについて

2020年4月5日に開催を予定していた2020年第1回目となる第7回JSPEN栄養マスターコースについても中止を決定した。2020年10月4日に開催を予定していた第8回については、第7回の講師陣のスケジュール確認も出来たことから今回の企画内容での開催を計画しているが、今後の社会情勢を見ながら判断する。

#### 3. 第3回NSTベーシックコースについて

2020年下半年にて第3回NSTベーシックコースの開催を企画する。（詳細未定）

#### 4. JSPENテキストブック新刊の発行について

この2～3年での新しい情報の追加の必要性、様々な教育セミナーでの教科書としての内容の充実の必要性、さらに学会名の変更もあったことから、全面的に改訂新版を出すことを計画している。本件は、JSPENプロジェクトP004として、前回担当した佐々木副理事長と鍋谷で責任編集を担当し、専門性を鑑みたプロジェクトメンバーとして、小山理事、吉田理事、中瀬理事、千葉正博代議員に加わっていただき、編集業務を迅速に行い、来年2021年の学術集会時の発行を目指す。

#### 5. 職能3部会アドバンスコース（NST実力向上セミナー）の開催計画について

部会独自のアドバンスコース（NST実力向上セミナー）は、リクエストに応じて開催を予定している。よりよい教育カリキュラムの提供を目的に本委員会が引き続き支援を行う。

### 教育委員会 LLL WG（高増理事）

#### 1. 第16回LLLライブコースを以下のとおり開催した。

2019年3月16日～17日、北里大学白金キャンパス1号館、参加申込累計数：90名

#### 2. 第17回LLLライブコースを以下のとおり開催した。

2019年8月3日～4日、東海東京証券（株）オルクドール・サロン33階、参加申込累計数：128名

#### 3. 第18回LLLライブコースは、2020年3月14日～15日、北里大学白金キャンパス1号館で開催を予定していたが、COVID-19の感染拡大防止のため中止を決定した。

### 専門能力開発委員会（鍋谷理事）

今年から職能部会主催のアドバンスコース（NST実力向上セミナー）の開催を検討している。今回、栄養士・管理栄養士部会よりNST専門療法士資格を持つ栄養士・管理栄養士の先生を対象としたセミナーの企画案が提出されており、教育委員会・理事会等の確認を経て、ウェブサイトにて案内する。

## 職能別活動検討委員会

### 栄養士・管理栄養士部会（斎藤理事）

#### 1. 栄養士・管理栄養士部会会議の開催について

2019年2月13日に会議を開催し、JSPEN2020 栄養士・管理栄養士部会パネルディスカッションテーマと講師、職能別アドバンスコーステーマと講師、各種委員会活動報告を行った。

#### 2. 栄養士・管理栄養士部会アドバンスコース（NST 実力向上セミナー）の企画案と開催について

2020年11月の開催を予定し、「症例から学ぶリサーチクエストと研究法（仮題）」をテーマとして、「栄養管理の実践力向上とクリニカルクエストを発表、論文に結び付ける力を身につける（仮）」ことを目的にNST 専門療法士の有資格者を対象として開催に向けて準備を進めている。

### 薬剤師部会（二村理事）

#### 1. 薬剤師部会会議の開催について

2019年2月13日、7月21日、10月5日に会議を開催し、NST ベーシックコース、薬剤師部会パネルディスカッション、LLL 事前学習会、日病薬研修認定単位の配布方法、薬剤師部会予算等について検討した。

#### 2. 薬剤師部会 LLL 事前学習会開催について

LLLライブコースに併せて、以下のとおり事前学習会を開催した。

第1回（北里大学白金キャンパス）：①2019年6月8日、②6月29日、③7月27日

第2回（北里大学白金キャンパス）：①2019年12月21日、②2020年1月18日、③2月8日

#### 3. 第2回 NST ベーシックコース（薬剤師部会企画）

2019年11月17日にAP 東京八重洲通りにて開催した。参加者は90名（会員・非会員）であった。

### 看護師部会（篠理事）

2019年7月6日、10月5日に会議を開催し、2020年第35回学術集会に向け、「栄養看護の未来を拓く」を副題に、『気づく・繋げる・広げる栄養看護』の第2弾の企画・検討を行うとともに、今後の看護師部会の取り組み状況について検討した。

### TNT 委員会（福島理事）

2019年は計15回の研修会を開催し988名が受講修了した。2020年も合計15回の研修会が予定しているが、COVID-19の感染拡大防止に伴い、開催スケジュールも含めて検討中である。詳細が決定次第、ウェブサイトにて案内を行う。また、TNT研修会は2020年をもって終了となる。2021年以降は、新しいセミナーとして立ち上げるため、現在、準備を進めている。

## 【認定・資格検討部門】

### 認定・資格制度委員会 認定医・指導医・認定歯科医制度（福島理事）

#### 1. 認定医試験結果について

2019年11月3日に施行された認定医認定試験にて、41名が合格し認定医として認定した。

#### 2. 指導医の認定について

審査を経て、申請のあった6名について指導医資格条件を満たしていることを確認し、指導医とし

て認定した。

3. 指導医 資格更新審査結果について

審査を経て、22名を指導医資格更新者について指導医更新資格条件を満たしていることを確認し、指導医更新者として認定した。

4. 指導医 終身認定移行者について

指導医 2名が 2020 年 3 月 31 日をもって指導医期間が満了となり、終身認定へ移行される。

5. 認定医 資格更新審査結果について

審査を経て、27 名を認定医資格更新者として認定医更新資格条件を満たしていることを確認し、認定医更新者として認定した。

6. 認定医 終身認定移行者について

認定医 1名が 2020 年 3 月 31 日をもって認定医期間が満了となり終身認定へ移行される。

7. 認定歯科医試験結果について

2020 年 11 月 3 日に施行された認定歯科医認定試験について、5 名が合格し認定歯科医として認定した。

### 認定・資格制度委員会 専門療法士認定制度（三原理事）

1. 2018 年度 NST 専門療法士認定試験の結果報告について

受験申請者 1,100 名(前年より-25 名)のうち、受験者数は 1,025 名(前年より-15 名)であった。全受験者数の平均点は 67.34 点と昨年の 66.51 点を上回った。合否判定委員会で審議し、43 問(53.75%)を合格ラインとした。その結果、合格者数は 872 名で、合格率は 85.07%であった。

2. NST 専門療法士認定更新の結果について

更新対象者 1,705 名のうち、申請受付は 1,408 名、未更新は 297 名であった。審査を経て 1,400 名を更新認定者として認定した。

3. 2019 年度暫定臨床栄養代謝専門療法士認定について

暫定認定申請を開始し、今年は 425 件の申請があった。暫定条件は、専門療法士資格取得後、更新認定が 1 回以上されていること、認定資格取得後、自らが専門とする領域に関して筆頭演者としての発表があることを条件としているが、第 1 回の暫定認定審査を行ったところ選択領域の発表内容として認められないものもあり、暫定認定条件を満たしていないものと判定し、不合格とした。

第 1 回暫定認定合格者：374 名、不合格者：51 名

- 1) がん専門療法士：108 名、
- 2) 肺疾患専門療法士：9 名、
- 3) 肝疾患専門療法士：11 名
- 4) 腎疾患専門療法士：18 名、
- 5) リハビリテーション専門療法士：30 名
- 6) 在宅専門療法士：24 名、
- 7) 小児領域専門療法士：22 名、
- 8) 摂食嚥下専門療法士：74 名、
- 9) 周術期・救急集中治療専門療法士：78 名

4. 認定教育施設新規および更新について

更新対象 30 施設のうち、30 施設が更新の手続きを行い、引き続き認定教育施設として認定した。新規の認定教育施設は 9 施設あり、審査を経て認定された。

5. 学会の認める全国学会・地方会・研究会について

2019 年度の「学会の認める全国学会・地方会・研究会」への申請はなかった。2020 年度は、NST 専門療法士認定資格の更新維持を保つため「学会の認める全国学会・地方会・研究会」における地方会・研究会を対象に活動調査を行う予定である。

#### 6. 2019 年度認定試験ワーキンググループについて

試験問題作成担当（試験当日の試験官担当兼務）、試験問題選択担当（症例報告書の審査兼務）として活動した。

#### 7. 2020 年 NST 専門療法士更新必須セミナーについて

COVID-19 感染拡大防止のため、第 1 回 NST 専門療法士更新必須セミナーの座学開催は中止し、e-learning 形式での実施に変更した。本セミナーは年間通した同一講師陣での講義となるため、本会期中に講義収録をお願いしている。第 2 回以降は、状況を鑑みながら実施形式について検討し、随時ウェブサイトにて案内する。

2020 年 NST 専門療法士更新必須セミナー講演内容

- ① 重症患者に対する栄養療法：講師 祖父江和哉
- ② 病態ごとにみる小児の栄養療法：講師 高増哲也
- ③ 高齢者のサルコペニア、リハビリテーションと栄養管理：講師 吉田貞夫
- ④ 腎疾患の栄養管理：講師 野上哲史

#### 8. 2020 年認定試験について

2020 年 10 月 25 日（日）に国立京都国際会館で開催する予定。認定医・認定歯科医も同日開催予定。

### NST 委員会（中瀬理事）

#### 1. 2019 年度 NST 委員会活動報告について

1) 当委員会として以下の新規活動目標を策定し、活動を行なった。

- (1) 地域一体型 NST 構築に向けて
- (2) 栄養評価の改正プログラム (GLIM JSPEN 2-02) に関して
- (3) NST 稼働認定施設活性化プログラム (新 NST プロジェクト Reborn 01 創設：NST 稼働認定施設の増加・活動内容の質の向上)

2) 第 35 回学術集会における NST フォーラムを計画 (テーマ「極めよう！NST の進むべき道」) した。

#### 2. NST 稼働施設認定について

認定基準に従って、新規・更新申請の審査を行った。また、書類不備への書式改善の検討、申請内容における栄養評価件数、回診件数、症例検討件数不足などの課題についても検討を行った。

- 1) 新規：申請 19 施設：合格 19 施設
- 2) 更新：申請施設数 358 施設：合格 344 施設、不合格 10 施設・辞退 4 施設
- 3) 未申請：115 施設

### 【学術部門】

#### 編集委員会（佐々木副理事長）

#### 1. 年度別掲載状況（過去 5 年）について（2019 年 12 月 31 日現在）

##### ■日本静脈経腸栄養学会雑誌

年	巻	原著	症例報告	総説(特集)	臨床経験	施設近況報告	研究報告	地方会抄録	学会からの報告	計
2015	30	19	9	34	9	3	4	33	0	111
2016	31	15	10	32	4	1	2	33	0	97
2017	32	20	12	33	13	6	6	34	0	124
2018	33	18	5	28	6	4	4	34	0	99
2019	34	0	0	38	0	0	0	0	0	38

■e-journal「学会誌 JSPEN」

年	巻	原著	症例報告	臨床経験	施設近況報告	研究報告	地方会抄録	プロジェクト報告	用語解説	学会からの報告	計
2019	1	18	14	2	3	2	30	1	3	2	75

2. 査読状況について（2019年1月1日～12月31日）

オンライン投稿（Editorial Manager®）

新規投稿数 75 本、採用 26 本、著者修正中 24 本、査読中 15 本、査読後再投稿なし 2 本、掲載不適當 6 本、ESPEN 報告 2 本であった。

3. 原稿受領から採用決定までの日数について

該当論文 26 本の平均日数 107 日（最短 26 日／最長 286 日）、採択決定後、6 カ月以内に掲載している。

4. 電子ジャーナル(J-STAGE)について

以下のとおり『日本静脈経腸栄養学会雑誌』を公開した。

■日本静脈経腸栄養学会雑誌

34 巻 1 号 2019 年 4 月 20 日公開、34 巻 2 号 7 月 20 日公開、34 巻 3 号 9 月 20 日公開

34 巻 4 号 11 月 20 日公開、34 巻 5 号 2020 年 1 月 30 日公開

■e-journal「学会誌 JSPEN」

Vol. 1 No. 1 2019 年 8 月 16 日公開、Vol. 1 No. 2 10 月 30 日公開、Vol. 1 Sup. 1 9 月 6 日公開

Vol. 1 Sup. 2 2020 年 1 月 24 日公開

5. 座長推薦論文について

JSPEN 2019 では、該当演題座長より 72 件の推薦をいただき、メールで投稿の案内を行った。

現在まで 6 本の論文投稿がされている。JSPEN 2018 は、57 件の推薦に対して、10 本の論文が投稿され、4 本（原著 3 本、症例報告 1 本）の掲載が確定した。今回、第 35 回学術集会においても座長推薦の依頼を予定していたが、集合型での開催は中止となったため、来年の再開を予定する。

6. ANNALS OF NUTRITION AND METABOLISM (ANM 誌)について

2017 年 10 月より、会員専用ページ経由でオンライン購読を行っている。同誌には日本からも Editorial Board Member が就任しており、日本の臨床栄養学の研究成果を海外へ情報発信がより活発に活性化するよう努めている。

7. 学会誌「JSPEN」投稿規程の一部変更について

投稿規程の著作権に関する記載文言において、より権利の明確な記載のため、一部文言の修正を行った。

変更前	変更後
<p>【投稿内容】 本誌に掲載を希望して投稿する論文は、 ・・・ なお、掲載論文の著作権は、<u>掲載決定日に日本静脈経腸栄養学会に譲渡されたものとする</u>。転載の許諾等は理事長がこれを決する。</p>	<p>【投稿内容】 本誌に掲載を希望して投稿する論文は、 ・・・ なお、投稿論文のすべての著作権（<u>著作権法第 27 条及び第 28 条が定める権利を含む。</u>）は、<u>掲載決定日に日本臨床栄養代謝学会に譲渡されたものとし、投稿論文の著作者は、投稿論文に関する著作者人格権を行使しないものとする</u>。投稿論文の転載の許諾等は理事長がこれを決する。</p>

#### 8. e-journal「学会誌 JSPEN」における特集について

e-journal「学会誌 JSPEN」に掲載する特集号について、本会の臨床栄養コンセンサス検討委員会を構成する WT001～WT009 各領域 WT 長に、各領域に関する企画・テーマにて執筆を依頼した。準備が整った WG より掲載予定である。

#### 9. 論文の査読について

e-journal「学会誌 JSPEN」の論文査読にて、査読レベルが著しく不足している方、査読期限を守らない方は、査読者リストから外し、査読の質の向上を図る。また、代議員は全員を査読者として登録しているが、査読を辞退される代議員がおられることを社員総会でも報告し、引き続きのご協力を依頼する。

#### 10. 採択後即時掲載制度について

e-journal「学会誌 JSPEN」に掲載する論文は、採択後 6 カ月以内の掲載を原則に、採択順に掲載されている。掲載論文は資格取得等の実績となる。著者の利便性を考慮し、採択された論文の即時掲載をするための有料制度を新設した。

#### 11. 優良査読委員の表彰について

査読期限を守り、かつ優れた査読をした査読者について、編集委員会にてボードを担当している 4 名が 1 名ずつ、計 4 名の査読者を優良査読委員として推薦して学術集会で表彰する制度を新設し、第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会から表彰を開始する予定である。

#### 12. 「静脈経腸栄養テキストブック」改定版の発行について

2020 年 1 月より本会の名称が変更となったこと、同テキストブック発行から 3 年が経過することから、学会名称変更について記載した帯を作成した。また、内容を改定した「一般社団法人日本臨床栄養代謝学会 静脈経腸栄養テキストブック」の企画を、第 36 回学術集会に合わせて実施する。

### 用語委員会（中瀬理事）

#### 1. 2019 年度活動報告について

1) 日本医学会分科会用語委員会遺伝学用語に関する WG のアンケートに回答した。

「優性」「劣性」を置き換えるべき用語に関して、当会用語委員会ではそれぞれ「顕性」「潜性」に置き換えることに賛意を表明した。

2) 日本医学会分科会用語委員会出席（於 2019 年 12 月 17 日日本医師会館）：

日本医学会分科会用語委員会遺伝学用語に関する WG から「顕性」「潜性」に置き換える旨報告がされた。さらに ICD-11 和訳作業、日本医学会医学用語辞典 WEB 版のメンテナンス、「奇形」を含む医学用語書き換え WG などの報告を受けた。

3) 「学会誌 JSPEN」用語解説

Vol.1 No1 に「腸管リハビリ」、No.2 に「ビタミン B1」が掲載された。引き続き用語解説を掲載する。執筆については代議員にも依頼・協力をお願いする。

### 学術集会実践支援委員会（犬飼理事）（別添資料 参照）

#### 1. 2019 年度活動報告について

総務委員会・規約委員会・倫理・利益相反委員会・支部統括委員会・将来構想委員会と連携し、当会学術集会・支部学術集会に関する以下の現状確認を行った。学会発表については、コンプライア

ンスの観点から学会の取り組みが重要となっているため、開催のサポートを行う。

- 1) COI：学術集会・支部学術集会ともに筆頭演者のCOI開示が、演題登録時と発表時に必要。
  - 2) 著作権：学術集会・支部学術集会ともに発表内容や抄録に掲載される図表等の著作権は当会帰属する。その後の使用は、所有者の権利に注意し、発表者と当会との間でその都度協議の上すすめることにする。
  - 3) 二重発表：学術集会・支部学術集会ともに、他学会や支部会ですでに登録された演題は応募することができない。など二重発表に対する注意喚起を行う。罰則は当面設けない。
  - 4) 倫理審査：第33回学術集会時の社員総会で、今後演題登録時に倫理審査委員会による承認が必要になることを報告した。各委員会で議論を深め、定例理事会で同議案をあげ、第36回学術集会より対応していくことが確認された。また、倫理審査に関する方針が承認された。まずは学術集会を対象とし、支部学術集会は対象としない。
  - 5) 学術集会の学生参加について：学生とは学部学生と規定する。(大学院生は非対象)
2. 学術集会開催に伴う以下の諸事案の対応指針について関係委員会と協議し理事会にて決定した。
- 1) 他学会との合同シンポジウムについて
  - 2) 合同シンポジウムにかかる費用について
  - 3) 学術集会の学生参加について
  - 4) 年次学術集会・支部学術集会での演題発表資格について
  - 5) アワードについて
  - 6) 海外招聘者の対応について
  - 7) 年次学術集会と支部学術集会の待遇について

#### **学術集会実践支援委員会 記念 AWARD 選考 WG (山中理事)**

##### 1. 大柳治正記念学術振興アワード選考

選考基準にしたがい、受賞者を決定した。また、2名の関連講演を行う者を決定した。

第35回学術集会において、収録による受賞講演および関連講演を行う。

受賞講演：入山圭二先生（長島中央病院）

関連講演：宇佐美 眞先生（甲南女子大学 医療栄養学部 医療栄養学科）

関連講演：福島恵造先生（神戸学院大学 薬学部 臨床薬物動態学研究室）

##### 2. 小越章平記念 Best Paper in The Year 選考

選考基準にしたがい、受賞論文を決定した。第35回学術集会にて、収録による受賞者記念講演を行う。

奥川喜永（三重大学消化管・小児外科学講座）

「Circulating miR-203 derived from metastatic tissues promotes myopenia in colorectal cancer patients」

#### **学術集会実践支援委員会 学術 AWARD 選考 WG (鈴木理事)**

##### 1. JSPEN YOUNG DOCTORS AWARD 2020受賞者について

4名からの応募があり、審査の結果、3名の受賞者を決定した。

受賞者①：大邊寛幸(東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻 臨床疫学・経済学分野)

タイトル：重症頭部外傷患者に対する早期経腸栄養の効果：DPCデータを用いた傾向スコアマッチング研究

受賞者②：大槻郁人(札幌医科大学附属病院 麻酔科)

タイトル：低栄養リスクを有する急性期脳卒中患者に対する栄養管理の有効性についての検討ーランダム化比較試験ー

受賞者③：匂坂正孝(医療法人匂坂会サキサカ病院)

タイトル：誤嚥性肺炎や消化管合併症を有する高齢者に対する安全な経腸栄養プロトコル確立に向けた検討

## 2. YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2020受賞者について

3名からの応募があり、審査の結果、3名の受賞を決定した。

受賞者①：瀬部真由(徳島大学大学院 代謝栄養学分野)

タイトル：脂質の過剰摂取は関節リウマチ病態の増悪・骨格筋量の減少を引き起こす

受賞者②：古屋宏章(昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 社会薬学部門)

タイトル：新規格栄養チューブ(ISO 80369-3)における細菌汚染の経時的変化の検証

受賞者③：大原雄希(札幌医科大学附属病院 薬剤部)

タイトル：ポリファーマシーが経口摂取量に及ぼす影響

## 3. JSPEN スカラーシップ賞受賞者について

3名からの応募があり、審査の結果、1名の受賞を決定した。

受賞者①：田中拓樹(福岡青洲会病院 リハビリテーション部)

タイトル：回復期リハビリテーション病棟における高齢大腿骨近位部骨折術後患者の必要エネルギーを推定する

なお、本年から受賞講演は執り行わない形に変更した。

## 学術集会実践支援委員会 フェローシップ選考WG(三原理事)

### 1. 受賞者選定について

1) 2019年の横浜での第34回学術集会応募者セッションにおいて発表された候補者の中から、厳重な審査の結果、以下の1名を受賞者として選定した。畠山先生には、第35回学術集会の受賞者講演として研究成果を収録にてお願いする。

畠山淳司(横浜市立みなと赤十字病院 集中治療部)

「滅菌密閉型容器使用下での経腸栄養持続投与時の細菌汚染の検証：前向き介入研究」

2) 第35回学術集会では、演題公募に際して本賞への応募を希望した18題から抄録にて7名を選考し、応募者セッションにてご発表頂く予定であった。今回の集合型開催の中止に伴い、選考方法について継続協議中である。

### 2. 副賞授与の取り扱いについて

フェローシップ賞受賞者に授与される副賞の申請期限について、学会への報告期限と本人への通知からの期限に認識のずれが生じることがあった。このため上記報告事項1.のとおり最終選考、表彰までの過程を昨年より整理した。第35回学術集会以降は学会期限内の総会・学術評議員会にて受賞式を執り行うため、最終決定日はより明確となる。

## 【臨床栄養推進部門】

### ガイドライン委員会（小谷理事）

#### 1. 委員会活動報告について

委員会再編後の活動は、主に Slack を利用して活動を進めている。2020 年より具体的な制作過程に入るため第 1 回委員会を神戸大学にて開催し、1) ガイドライン作成手法の概略のレクチャー、2) 役割分担の協議、3) ガイドラインの構成について（①GRADE パート、②narrative review パート）、4) ガイドライン作成工程のタイムフロー、5) 今後の予定についてについて協議した。

#### 2. ガイドライン作成の方向性と進捗状況

今回作成するものは、Mindsの基準に従い、国際的に通用する学術書として発行する。また、第3版の掲載内容は広範囲となっているが、分野によっては不十分な点もある。後継となるガイドラインの発行は急務となるため、はじめに「がん栄養領域」として「がん患者のための代謝・栄養管理ガイドライン」として世界に通用する基準での発行を目指す。

### 臨床栄養コンセンサス検討委員会（犬飼理事）

本委員会は、アウトカムを目的に組織された委員会となる。具体的には既刊のガイドラインに変わるものの一つとして、より高い評価を得た“コンセンサスのある使い勝手がよいもの”を発行することとする。第 1 回委員会は、2019 年 6 月 16 日に開催し、委員会メンバーと各 WT 長が参集し、認識の共有を図った。発行予定日は、2021 年 2 月の第 36 回学術集会を目指す。コンセンサス本の名称は、今後の検討課題とするが、9 領域のシリーズ化であるという位置づけと、本事業のキーワードとして“コンセンサス”というキーワードは残す予定で進めている。

### 臨床栄養コンセンサス検討委員会 9 領域 WT（犬飼理事）

#### 2019 年度活動報告について

- WT 001 がん（鍋谷圭宏 WT 長）：様々ながん診療におけるコンセンサスを、CQ に対する現時点でのエビデンスという形でまとめるための CQ の抽出を進めた。CQ を厳選して、がん患者の栄養管理におけるコンセンサスを確立したい。
- WT 002 肺疾患（吉川雅則 WT 長）：呼吸器疾患全般の栄養管理(3 件)、気管支喘息(4 件)、慢性閉塞性肺疾患(8 件)、肺癌(15 件)、肺感染症(33 件)、間質性肺炎(15 件)、誤嚥性肺炎(19 件)、周術期(2 件)、肺移植(1 件)に関する CQ が提案されている。現在、論文レビュー作業を行っており、その結果を踏まえてメール審議にて絞り込みを行う予定である。
- WT 003 肝疾患（海道利実 WT 長）：肝疾患に関する臨床栄養のコンセンサス作成に向け、CQ を選定し、各 CQ に関する参考論文を文献検索し、エビデンスの集積作業を進めた。体組成(2 件)、肝硬変(26 件)、NAFLD/NASH(12 件)、肝性脳症(10 件)、肝癌：内科的治療や発癌(7 件)、肝癌：肝切除(14 件)、肝移植(8 件)、その他(4 件)
- WT 004 腎疾患（野上哲史 WT 長）：腎疾患に関するコンセンサスの作成に向け CQ について検討した。
- WT 005 リハビリテーション（吉田貞夫 WT 長）：リハビリテーション分野に関する栄養管理の有効性について、文献などの情報を収集し CQ を作成中、CQ のエビデンスレベルなどについて審議を

進めた。

WT 006 在宅(山中英治 WT 長): コンセンサス本の作成において、在宅医療の Clinical Question (CQ) の検討を行った。2020 年は、Clinical Question (CQ) を決定し、デルファイ調査、原稿作成を行う。

WT 007 小児(高増哲也 WT 長): 小児医療のコンセンサスの作成に向けて、CQ の検討を行った。

WT 008 摂食・嚥下(石井良昌 WT 長): ※摂食・嚥下のコンセンサスの作成に向けて、CQ の検討を行った。

WT 009 周術期・救急集中治療(祖父江和哉 WT 長): 周術期・救急集中治療のコンセンサスの作成に向けて、CQ の集積作業の準備を行った。

## 【JSPEN プロジェクト部門】

### P001 REDCap プロジェクト(飯島理事)

在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定に関する EDC を用いた症例登録型データベース構築について

大規模かつ多施設によるレジストリ型データベースを活用し、平成30年度診療報酬改訂で新設の在宅半固形栄養経管栄養法指導管理料の算定患者の実態を把握し、転帰を評価後改訂の検討に加え、管理面での標準化を図る目的で事業化が承認された。今年度は研究計画を完成させ、必要な倫理審査を受け、レジストリ型データベースとしてREDCapシステムと契約を締結し、2019年11月10日に第1回キックオフミーティングを開催した。参加施設は募集中である。

### P002 地域連携推進プロジェクト(犬飼理事)

プロジェクトメンバー内で意見交換を進めている。

### P003 誤接続防止対策プロジェクト(丸山理事)

1. 新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の情報提供と導入方法に向けての会員への情報提供と導入方法の紹介について

第34回学術集会および各支部学術集会にて IS080369-3 の情報提供を行い、会員への周知を行った。また、新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の情報提供と導入方法に向けての会員への情報提供と導入方法の紹介と第34回学術集会および JSPEN 各支部学術集会、JSPEN 主催の教育セミナー(コース)にて IS080369-3 の情報提供を行い、会員・非会員への周知を行った。

2. 新経腸栄養コネクタ IS080369-3 の研究報告、論文文化を行った。

1) 半固形化栄養剤注入における新誤接続防止コネクタ (IS080369-3) のユーザビリティ評価  
—ヒトによる官能評価試験—、JSPEN 1(2):98-103, 2019

2) ミキサー食における新誤接続防止コネクタ (IS080369-3) のユーザビリティ評価  
—ヒトによる官能評価試験—、JSPEN 1(4): 310-316, 2019

## VII. 第38回学術集会会長選出

第38回(次々々回)学術集会会長に、小谷理事が立候補され、承認された。

## VIII. 第36回(次回)学術集會會長挨拶

第36回(次回)学術集會會長の鍋谷理事より、会期：2021年2月18日(木)～19日(金)として、神戸市(神戸国際会議場・国際展示場・ポートピアホテル)で開催し、メインテーマは『温故知新：栄養療法のこれまで・今・これから』としたことが報告された。また、日本医学会連合で「研究発表に当たっての倫理ガイドラインの共通化」が進んでいることから日本臨床栄養代謝学会学術集會としても第36回学術集會の演題申込より、応募演題の倫理面でのチェックが済んでいるかどうかの現状調査も含めた確認のプロセスを加えることになったことが説明され、関係各位へ協力依頼がされた。

## IX. 第37回(次々回)学術集會會長挨拶

第37回(次々回)学術集會會長の飯島理事より、会期：2022年2月10日(木)～11日(金)として横浜市(パシフィコ横浜)で開催することが報告された。

## X. 名誉会員・特別会員推戴 表彰

名誉会員 木村 理(東都春日部病院 院長/ 山形大学 名誉教授)

倉田なおみ(昭和大学薬学部 客員教授)

特別会員 片山寛次(福井大学医学部 がん専門医育成推進講座 特任教授)

瀬下明良(東京医科大学 消化器外科・小児外科分野 特任教授)

谷口正哲(協和病院 内科 副院長)

鈴木宏昌(帝京平成大学 教授)

飯田則利(北九州湯川病院)

## XI. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集會會長感謝状授与

学術集會會長への感謝状は、例年、総会・学術評議員会時に執り行うが、集合型開催の中止に伴い、本社員総会にて東口理事長から佐々木会長へ第35回日本臨床栄養代謝学会学術集會に関わる準備をはじめとしたご尽力に対し、謝辞と感謝状が授与された。

## XII. 各 AWARD 表彰

総会・学術評議員会後の表彰式を執り行うことになっていたが、今年の開催は中止となったため、受賞者には学会事務局より賞状等の賞牌を送付することが案内された。

### OLL diploma 取得者 表彰

石田優利亜(愛知医科大学病院 栄養部)

大菊正人(浜松医療センター 消化器外科)

小笠原隆(浜松医療センター 呼吸器内科)

小川 薫(順天堂大学保健看護学部 臨床医学)

小川祐介(国立病院機構高崎総合医療センターNST 栄養管理室)

菅野仁士(日本医科大学 消化器外科)

坪根恭子(多摩平の森の病院)

中林幹雄（茨城県立中央病院 NST・栄養サポート室）  
馬場裕之（横浜市立みなと赤十字病院 外科）  
廣野靖夫（福井大学医学部附属病院 がん診療推進センター）  
山田天星（神奈川県立こども医療センター 医療技術部門栄養管理科）

○JSPEN YOUNG DOCTORS AWARD 2020 表彰

授与者名：大槻郁人（小樽市立病院 麻酔科）  
研究課題：低栄養リスクを有する急性期脳卒中患者に対する栄養管理の有効性についての検討  
ーランダム化比較試験ー

授与者名：大邊寛幸（東京大学大学院医学系研究科 臨床疫学経済学分野）  
研究課題：重症頭部外傷患者に対する早期経腸栄養の効果：  
DPC データを用いた傾向スコアマッチング研究

授与者名：匂坂正孝（医療法人匂坂会 サキサカ病院）  
研究課題：誤嚥性肺炎や消化管合併症を有する高齢者に対する安全な経腸栄養プロトコル確立に  
向けた検討

○YOUNG INVESTIGATOR AWARD 2020 表彰

授与者名：大原雄希（札幌医科大学附属病院 薬剤部）  
研究課題：ポリファーマシーが経口摂取量に及ぼす影響

授与者名：古屋宏章（昭和大学薬学部社会健康薬学講座 社会薬学部門）  
研究課題：新規格栄養チューブ (ISO 80369-3) における細菌汚染の経時的変化の検証

授与者名：瀬部真由（徳島大学大学院医歯薬学研究部 代謝栄養学分野）  
研究課題：脂質の過剰摂取は関節リウマチ病態の増悪・骨格筋量の減少を引き起こす

○JSPEN スカラーシップ賞 2019 表彰

授与者名：田中拓樹（福岡青洲会病院 リハビリテーション部）  
研究課題：回復期リハビリテーション病棟における高齢大腿骨近位部骨折術後患者の  
必要エネルギーを推定する

以上